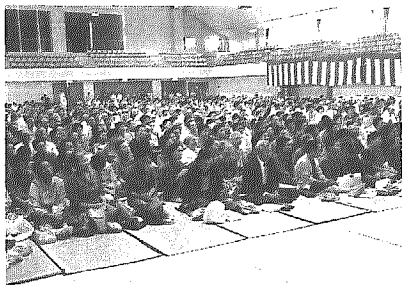


とっている。
住民福祉課長 ②既設の公園は24か所あり、本年度の児童公園と交通公園の維持管理費は総額20万3千円。

寝たきりゼロを目指す福祉の町に 脳卒中対策、リハビリに努めたい

G議員 福祉対策についてわが国の寝たきり老人は「ねかされ老人」である。介護する側の都合が優先し、手間暇かけてベッドから起こし、洋服を着せ車イスに移すよりも一日中ベッドで寝ていた方がいい、という考えである。アメリカやスウェーデンは寝たきりは少ない。残された体の能力を生かし自立できるように介護し、リハビリをする。寝たきりにはさせないという医療、福祉関係者の決意と努力、公的施設の充実が不可欠。黒崎町を寝たきりゼロを目指す町に、寝かされ老人をなくす町に、ヘルパーの増員を要望したい。



敬老会。10人に1人が65歳以上

農家の嫁不足に愛とおもいやりを 魅力ある農家 農業の実現で解消

G議員 行政サービスについて 新聞紙上に秋田県羽後町の青年たちが行った嫁来いパレードの記事。隣の白根市では触れ合いの場実行委員会、ボーリング大会を開く。見附

政サービス。
町長 A議員の答弁のとおり、西川線、燕線の交差点に信号機を 県公安委員会に積極的に要望する

G議員 交通安全対策について 新潟・西川線、新潟・燕線の交差点に信号機の早期設置を。

懸案の都市計画街路をどうする 変更も着工も困難。見直したい

H議員 都市計画区域における道路計画について ①昭和41年に認定された都市計画街路の内容は、計画線には建築物が建ち並んでいる。道路を造る時は、協力していただく旨の一筆を取られている。しかし、いつ造るかわからないと町は答えている。計画して23年、町は何もしていないではないか。10年、20年後に道路は出来るのか。あるいは計画の変更は可能なのか。

都市下水の後、公共下水道の計画は 公共下水道の基本計画の作成を準備

H議員 都市計画区域における排水路計画について ②前川原ポンプ場の排水能力及び排水区域は。来年度に都市下水路事業は一応終了するということが、どの区域まで排水できるのか。中学通り、興野、蓮方、大明の排水は都市下水路に流せるのか、広報

魅力ある農家、農業を実現してこそ解消されると思う。

西川線、燕線の交差点に信号機を 県公安委員会に積極的に要望する

G議員 交通安全対策について 新潟・西川線、新潟・燕線の交差点に信号機の早期設置を。

懸案の都市計画街路をどうする 変更も着工も困難。見直したい

H議員 都市計画区域における道路計画について ①昭和41年に認定された都市計画街路の内容は、計画線には建築物が建ち並んでいる。道路を造る時は、協力していただく旨の一筆を取られている。しかし、いつ造るかわからないと町は答えている。計画して23年、町は何もしていないではないか。10年、20年後に道路は出来るのか。あるいは計画の変更は可能なのか。

都市下水の後、公共下水道の計画は 公共下水道の基本計画の作成を準備

H議員 都市計画区域における排水路計画について ②前川原ポンプ場の排水能力及び排水区域は。来年度に都市下水路事業は一応終了するということが、どの区域まで排水できるのか。中学通り、興野、蓮方、大明の排水は都市下水路に流せるのか、広報

のあるものが2台とも1台秒あたり0.21㎡のものがあ

排水区域面積は18.5ha、ポンプ場一か所で昭和50年に都市計画認定を受けた。善久、鳥原、大野地内の81.44haの事業認可を受け工事を実施。公共下水道は取り組まなければならない。12月末、県が大河津分水から信濃川、中の口沿いを見直すという。その見直し案を踏まえて考えたい。

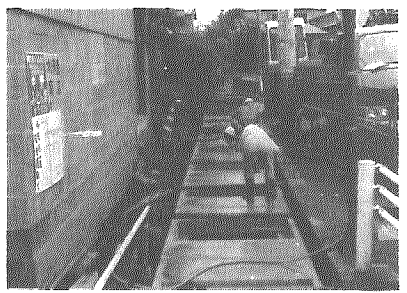
建設課長 来年度で一応81.44haの許可区域が終わる。都市下水路の目的は浸水箇所の解消で、ほかの興野など100haほどの計画区域は浸水が見られない。今後は、公共下水道に切りかえるべく基本計画の

北部地区に役場窓口を開くべきだ 北部公民館使えないが今後も検討

I議員 北部地区に住民行政サービスの窓口開設について 人口増加に伴い来庁者が増加、



人口増加の町北部



都市下水路事業は来年一応終了

駐車場も狭い。住民記録業務は既に電算化している。北部地区のために住民票や印鑑証明などを発行する窓口を開設できないか。北部地区公民館もあるし、新潟市でもやっているし、町長の選挙公約の一つではないか。
町長 公約を果たすべく調査したが、公民館の使用は目的外使用となり不可能。しかし本町の実態を踏まえて努力する。
教育長 新潟市は公民館に併設した市の施設で行っている。

黒崎町の 公音

町史編さん課

木場小唄の発掘(一)

昭和十九年、疎開してきた教師作の「木場小唄」が二十年後に復活する。

「木場小唄」という歌がある。この「木場小唄」、昭和十九年に作られたのだが、昭和四十年までは木場でもほんの一部の人たちにしか知られぬまま埋もれていた。

「木場小唄」の発掘 昭和四十年の早春、木場公民館の文化部長をしていた木場新田の丸山和五郎さん宅で、公民館関係者が集まって、その年の活動方針などについて会合を開いていた。会議が終わり座は酒席に変わる、宴半ばで歌をすすめられた満行寺の住職恵麟さんが「これは私が子供のころおぼえた唄です」といって唄い出したのが「木場小唄」だった。それは、その日出席していた全員が初めて聞く唄だった。

こんなに情緒のある良い唄が木場にあったなんてと、公民館の事業としてこの「木場小唄」を発掘し、普及させようということになった。
恵麟さんの話から、戦時中に満行寺へ疎開していた柴田先生の作詞・作曲したものと



「木場小唄」の振り付けは満行寺のお齋の間で行なわれた。今の量数だが、当時は板張りだった。写真は現在のお齋の間。当時のオルガンと、左から青木キキさん、大谷ツギさん、島津文子さん、山際サキノさん。

わかった。恵麟さんがまだ小学校二年生くらいのころのこととて、寺に歌詞はあったが、楽譜などは残っていなかった。「木場小唄」の普及には楽譜が必要だった。人一倍熱心に取り組んでいた丸山和五郎さんは、なんとか柴田先生の消息を知りたいものと満行寺へ足を運ぶうち、その前年

(昭和十九年)に柴田さんが満行寺へあてた年賀状を発見した。それによると柴田さんはまだ健在で、東京都の大田区立大田小学校に勤務していることがわかった。丸山さんはさっそく上京して柴田先生を訪ねた。目的は、この唄が作詞されて二十年以上たっているため、歌詞を改めるとこ

ろがあるのかどうかを確かめることと、楽譜の複製を依頼すること、の二つだった。
大田小学校を訪れた丸山さんは、校長室でその校長になつた柴田惣一郎さんと対面した。丸山さんから、公民館事業として「木場小唄」の発表会を開くことになったと聞くと、柴田さんは「二十年前に作つたわたしの拙い唄が、あの節、大変お世話になった木場の皆さんに歌っていただけるなんてしあわせなことです」と言っていて、喜んだ。そして、歌詞はそのまま良いでしよう、楽譜も近道中を送りますと快く承諾をいただいた。丸山さんは帰郷した。

「木場小唄」の誕生 今から四十五年前、昭和十九年八月二十六日のこと、東京深川区の川南国民学校の児童六十二人が、教員二人・寮母一人に引率されて木場満行寺に学徒疎開としてやってきた。この時の引率の教師の一人、柴田惣一郎さんがその年の十一月末に作詞・作曲したのが、「木場小唄」である。
「木場小唄」 柴田惣一郎作詞・作曲 一木場はよいとこ八幡様にヨ 桜吹雪がちらちらと 若菜摘む娘の肩に降る 若菜摘む娘の肩に降る

たわけでもなく自発的に作つたものであり、歌詞の内容から子供たちを気づかう親たちに「こんな環境のよいところでは伸び伸びくらしていますよ」と消息を知らせる気持ちから作つたものらしい。
振り付け作りの苦労 柴田先生は音楽的才能のある人だったが、踊りの振り付けはまったく異なる分野のものだったので、踊りの好きな村の娘たちの力を借りることにした。たまたま子供たちの隣の小林キヨミさん(旧姓富井)や、上組女子青年団員でよく寺に出入りしていた大谷ツギさん(旧姓山際) 山際サキノさん、青木キキさん(旧姓大谷) たちにこのことを話し、その協力を得て、振り付けを作ることになった。
踊りの好きなキヨミさんとツギさんは色々と考え、踊りに手拭いを使うことを思いつき、それが用いられた。
十二月に入ると、毎晩のように満行寺の本堂で、先生のひくオルガンにあわせて、「そこはこうした方がよいのでは」「いやそこはこうしなさい」と、文字通り柴田先生と彼女たちの合作による振り付けづくりが熱心に続けられた。
執筆・宮田栄門